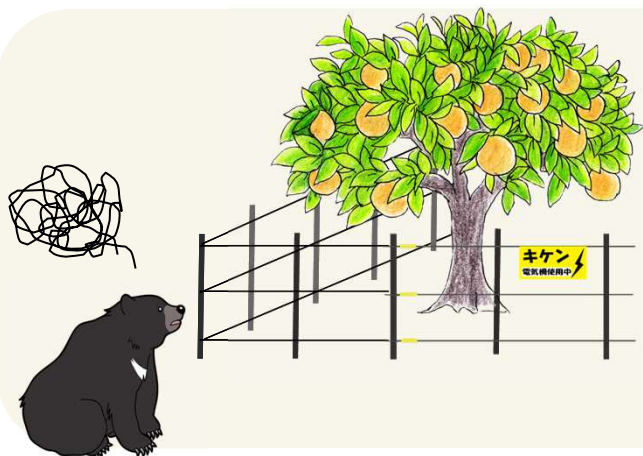


果樹園におけるクマ被害防止対策

大切な果実と、農作業の安全を守るために



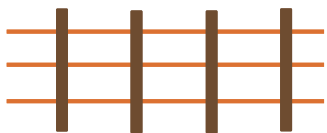
クマ被害防止の基本は

- 入れない = 侵入防止
- 寄せない = 誘引物除去
- 出会わない = 遭遇回避

01 入れない・寄せないためのポイント

① 侵入を防ぐ

クマの侵入防止には電気柵が有効です。電圧の維持や漏電対策など、設置後の管理を徹底しましょう。



② 見通しを良くする

園周辺のヤブを刈り払い、クマを発見しやすくします。電気柵の漏電防止にもつながります。



③ 味を覚えさせない

くず果を園内・周辺に放置しない。地域の放任果樹も、可能な限り伐採しましょう。



POINT ワイヤーマッシュ柵は、電気柵と組み合わせることで効果を発揮します

02 これってクマ被害？

クマ被害の典型的な痕跡



梨園(有袋栽培)では、食べた後の袋が太い幹などに圧着したように残ることがあります。



柿・栗などでは、枝を手繰り寄せて尻に敷くため、枝が折り重なることがあります。



糞にも注目 梨・柿などをすり潰したジャム状の糞。臭くない。

農作業中の安全対策

クマと「出会わない」ために、作業前から備えましょう

クマが園内に侵入していた場合、鉢合わせによる人的被害のおそれがあります。
「人が来た」とクマに知らせ、逃げる時間を作ることが重要です。

03 出会わないための5つのポイント

①

朝方・夕方は要注意

クマが活発に活動します。できるだけ複数人で行動し、ラジオやクマ除け鈴などで人の存在を知らせましょう。

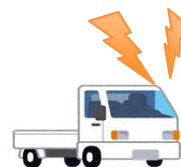
人が来た!!
逃げよ!!



②

クマが逃げる時間を作る

車なら園の少し手前から減速してクラクション、徒歩なら向かう時からクマ除け鈴を身につけましょう。



③

作業中は電気柵の電源を切る

園に入った後に電源を入れると、すでに園内にいたクマが逃げられなくなることがあります。電気柵は人がいない時に電源を入れましょう。

④

ラジオは作業中だけ

24時間つけっぱなしにすると、クマが音に慣れるおそれがあります。人がいる時間だけ使用してください。

⑤

クマ撃退スプレーは普段から練習

万一の接近時に備え、ホルダー等で身につけ、購入した製品の使用手順を確認しておきましょう。

クマ痕跡を見つけたら

まず安全を確保 → 園の所在する市町村へ相談

※許可なくクマの捕獲はできません。



電気柵の設置・点検マニュアルはこちら

鳥取県ホームページ

※電気柵には安全確保のための適切な表示・電源装置等が必要です。